文部省選定
日本映画ペンクラブ推薦

南の国の
心をつたえる——

母たち

バングラデシュ　仲間と共に、日用品作りにはげむ。アメナは、もうひとりのアメナではない。

16ミリ・カラー・54分　［企画・製作］株式会社**桜映画社**　［協力］**ジョイセフ**（家族計画国際協力財団）

映画は
4人の女たちの話

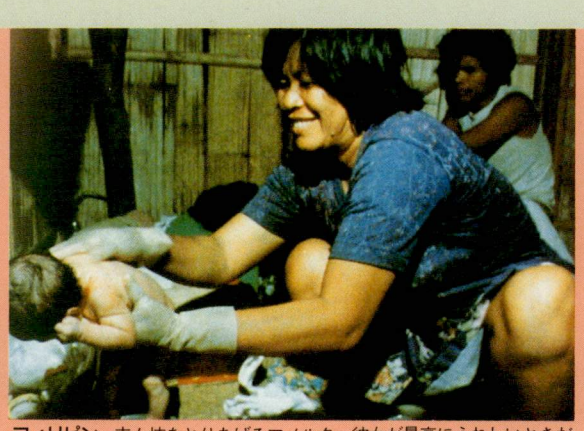
ジャワ島のゆったりとした
時の流れの中に生きるイナムの目覚め

フィリピンでは、カティワラ（医療補助医）として活躍するマメルタ

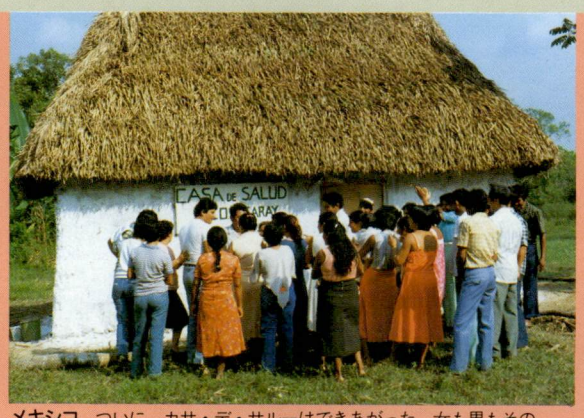
バングラデシュのイスラムの男女差別の中で歩みだすアメナ

そして、メキシコの無医村では、男たちをまきこんで
健康の家を作ったアンヘラと陽気な女たち

インドネシア　村の女たちは、初めて女たちだけの集まりを持った。



フィリピン　赤ん坊をとりあげるマメルタ。彼女が最高にうれしいときだ。



メキシコ　ついに、カサ・デ・サルーはできあがった。女も男もそのよろこびをわかちあう。

◉映画を見たひとたちからの声

●たくましいなぁと感心した。人間の原点を見る思い。（52歳／主婦）
●子供と一緒に見たい。色々な世界があってみんな一生懸命に生きていることを教えたい。（35歳／主婦）
●励まされる映画である。日本の女たちに「さぁ、あなたたちもチャレンジして」とメッセージを送られているような気がした。（28歳／女性・会社員）

〈お問い合わせ〉株式会社桜映画社
東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

四人の女のさざ波

上智大学外国語学部教授**村井吉敬**

美しい自然の中に、四人の第三世界の農村の母親が登場する。ジャワのイナム、ミンダナオのマメルタ、バングラデシュのアメナ、そしてメキシコのアンヘラ。彼女たちを取り巻く自然は美しい。しかし暮しは苦しい。彼女たちは暮しの向上と自立を求めて立ち上がった。その時、男たちが、また村社会が彼女たちのゆくてを阻む。女たちも時には敵対者となる。

一見ゆったりとした伝統社会ではある。しかし、そこには女たちや貧しい者たちのゆくてを阻む秘められた暴力がある。イナムも、マメルタも、アメナも、アンヘラもキッとした姿勢で、敢然と大地に立つ。彼女たちのおこしたさざ波は少しずつ周辺に広がってゆく。連れ合いの男が変わる。冷たい視線を投げかけていた女が輪に加わる。村長も協力し始める。小さな村の小さな保健活動、母子活動ではある。

第三世界の女や、貧者を取り巻く圧倒的な抑圧、暴力状況に正面から敢然と挑む劇的母親たちではない。上から、外からの仕掛が見えかくれもしている。これもまたリアルな第三世界の女性の置かれた状況であろう。たとえ上から、外からの仕掛ではあっても、彼女たちの活動はその社会の内なる力、内なる知恵に依拠することになる。

内からの地味な変革の枠組みを、四人の母親は私たちに見せてくれようとしている。四人の女の背後にある第三世界への想像力をかき立てずにはおかない、しっとりした佳作である。

[あらすじ]

私たちには近くて遠い国々、南の発展途上国の、それぞれに民族も文化も異なる大地に生きる母たちを訪ねてみよう。

初めて訪れたのは、インドネシアの中部ジャワ。そこには戦前の日本の農村を想わせる風景と生活があった。40歳で9人の子持ちだという一人の母に出会う。朝早く、その家庭を訪ねてみる。子供たちも両親を助けてよく働いている情景に、まず心を打たれる。村には、伝統文化が日常生活の中に生きている。ここそこにある静かな時の流れと心のくつろぎは、私たち今の日本人に忘れていたものを思い出させる。しかし、貧しくて働かなければならない母たちの悩みは、休む間もなく子供ができてしまうことだ。こうして序章は核心に入り、和気あいあいたる場面、村で初めての女たちだけの賑やかな集いになる。

この穏やかな序章から、第二章、第三章と、烈しい展開になる。富める北からの近代産業の大波が押し寄せている南の国々では、都市のスラムは年々ふくれ上り、その数は千以上もあるといわれる。そこから立ち上がって、たくましく生きるフィリピンの母たちの記録が第二話である。母たちの中から養成された医療補助医の一人を追って、故郷の農村での活躍を描く。

ついで、アジアでも最も貧しい国の一つバングラデシュの農村で性差別に耐え、経済的に自立していく女性を描く。結婚に破れ子連れで実家に帰されたアメナは、近くにある民間の医療施設に設けられたささやかな職業訓練所で学ぶ。自分の手でモノを造る喜びと、これが暮しを支えてくれる力になるのだと初めて知る。アメナはここで文字も習い覚えた。貧しい村の女たちは、少しでも現金が欲しいため、人目につかないところで低賃金の仕事に雇われていた。アメナは、自分の村にも女たちが胸を張って働ける仕事場を作ろうと、村の女たちを説得する。

終章は、メキシコの無医村で13人の陽気な女房たちが繰りひろげる明るい物語である。

南の国を訪ねて、心ある母たちからは教えられた。ひたむきな母たちの心を。

国際協力は、このような民衆の自助協力を辛抱づよく助けることではなかろうか。

[製作意図]

現在の私たちの生活は一見豊かになったかにみえるが、なにか大事なものを置き忘れているのではないか、という思いにかられることも少なくない。

この映画は、発展途上国といわれる南の国々を訪ねて、貧しいけれども子供たちの幸せと健康を願い、懸命に働く中から目覚め、自立をめざす母たちの姿を描いている。

そこには人間の生活の原点ともいえるものがあった。

この地球上に共に生きる仲間として、お互いを知り、理解し合うために、これらの国々に暮す人々の生活やその心、何を思って暮しているのか、その一端をつたえたい。

1977年からそれらの国の人々のために、アジア各国をめぐり、中南米を経てついにアフリカに達する長い旅をした。その豊富な取材をもとに、南の国の女性たちからのメッセージを、日本の女性たちへつたえようと、この映画を製作した。

上映会のおすすめ

発展途上国について関心を持っている方はもちろん、若いお母さんたちや、男の人たちも交えて、地域や組合、消費者グループなど身近なサークルで、この作品を問題提起として上映する映画の会・学習会・研修会などを企画してみませんか？

私たちは、上映会について、できるだけお手伝いしたいと考えています。

[上映会用フィルムのご案内]

◉フィルム販売価格（消費税別）
16mm／400,000円　VTR／60,000円
いつでも、誰でも利用できるよう、
各地フィルムライブラリーへの購入を薦めてください。

◉フィルム貸出価格（16mmのみ）
——入場料有料、無料同様
100人未満　一回　30,000円（消費税別）
100人以上　お話し合いで

◉フィルムの貸出期間
上映日を含めて3日（前日必着・翌日返却）
休日を予定する方は、ご相談ください。

◉宣伝材料・資料について
ポスター・チラシ（兼用）　1部20円（消費税別）

◉これらの発送費用は無料です。
但し、フィルムの返却に関する費用はご負担ください。

〈お問い合わせ〉株式会社**桜映画社**
東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

[製作スタッフ]

企画・構成＝村山英治
編集＝沼崎梅子
解説＝幸田弘子
音楽＝杉田一夫
製作＝利光久輝・福間順子

●インドネシアの母たち
演出＝村山正実
撮影＝小林一夫・北川英雄

●カティワラ
演出＝村山正実
撮影＝北川英雄

●アメナ
●カサ・デ・サルー
演出＝山下秀雄
撮影＝北川英雄

◉配給